

三女優初の姉妹役で至芸なる魂の競演

櫛の木坂 四姉妹

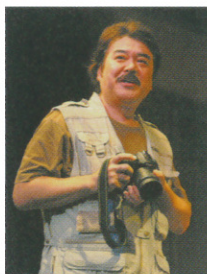
「わたし達の毎日からは
一度も八月九日が消えたことがなかとよ」



大塚道子
岩崎加根子
川口敦子

河原崎次郎
武正忠明
脇田康弘
平田朝音
大庭藍
桂ゆめ
小澤英恵
KiNoMi

《美術》 内山勉
《照明》 森脇清治
《効果》 田村恵
《衣裳》 若生昌
《方言指導協力》 長崎市民劇場
《演出助手》 落合真奈美
《舞台監督》 関裕麻
《制作》 山崎菊雄



作 堀江安夫
演出 袋正

2012年

8月12日[日]—14日[火] 俳優座劇場(六本木)

《開演時間》昼 13:30 夜 18:30 《料金》一般 5,250円 / 学生 3,675円 (各税込)

《前売開始》2012年 7月2日[月]

<http://www.haiyuza.net>

櫛の木坂 四姉妹

作 堀江安夫

演出 袋正



大塚道子



岩崎加根子



川口敦子



平田朝音



大庭 藍



桂 ゆめ



小澤英恵



KiNoMi



河原崎次郎



武正忠明



脇田康弘

《美術》内山 勉

《方言指導協力》長崎市民劇場

《照明》森脇清治

《演出助手》落合真奈美

《効果》田村 恵

《舞台監督》関 裕麻

《衣裳》若生 昌

《制作》山崎菊雄

死者が現在を生きる者の支えになる、ということが往々にしてある。違り方は土地や風習で様々に違えど、どの民族もが先人の霊に敬虔な祈りの場を持っているのは、遙か昔からそのことを承知して来たからだろう。

この作品は長崎のひとつ屋根に身を寄せ合って生きる老三姉妹の物語だ。しかし救えて「四姉妹」としたのは、原爆で命を奪われた三女が、ある時は彼女等の行動を縛ったり、またある時は励まし慰めたりと、今尚くつきりと共に生きているからに他ならない。

堀江安夫

その坂道は櫛の木坂と呼ぶ。長崎港を望む坂の中腹に樹齢数百年を超える櫛の老木があるからだ。人々はその威風をたたえ、神木として保存してきた。だがその老木も一九四五年八月九日の原爆投下で息絶えてしまったと思われたが、翌年の春、一枚の葉を芽吹かせた。今では道端からこの物語の舞台になる葦葉家の庭先までみごとな葉群を広げていた。

二〇〇〇年、長崎は夏を迎えようとしていた。被爆者である三姉妹の生活を撮り続けてきたカメラマンの洲崎はその日、部屋のピアノについて尋ねる。

それは四女が双子の姉三女の供養のために購入したものであった。あれから五十五年、ピアノの調べは若かりし四姉妹が暮らしていた頃へ誘っていく。

新劇を代表する大塚道子、岩崎加根子、川口敦子が競演する堀江安夫渾身の書き下ろしを、長崎に魅かれ続けてきた袋正が演出する。河原崎次郎、武正忠明等が加わり豪華な出演者が織り成す俳優座ならではのアンサンブルにご期待ください。

2012年 8月12日[日] - 14日[火] 俳優座劇場 (六本木)

《開演時間》昼 13:30 夜 18:30

《料 金》一般 5,250円 / 学生 3,675円 (各税込)

《前売開始》2012年7月2日[月]

《前売場所》劇団俳優座 03-3405-4743・03-3470-2888

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:419-205)

《お問合せ》劇団俳優座 03-3470-2888・03-3405-4743

(10:30~18:30日・祭日除く) <http://www.haiyuza.net>

	8月	12[日]	13[月]	14[火]
13:30		●	—	●
18:30		—	●	—

